

2026春闘



春闘

組合員の期待に応える 要求策定に向けて 議論をスタート!



～「さらなる収入の向上」に向けた 最大限の取組みを行うべく議論を展開～

生保労連は、10月1日の第2回営業職員・内勤職員委員会で、2026春闘の「統一要求基準※」策定に向けた議論を本格的にスタートさせました。

当日の会議では、2026春闘をめぐる現状や課題について、3つの視点(①引き続き上昇傾向にある消費者物価への対応、②社会全体の賃上げ・ベアの動きに対応した賃金改善の実現、③「生産性向上」に向けた各種支援の充実)を中心に検討を行いました。その上で、2026春闘の「統一要求基準」の方向性として、全組合が創意工夫をもって「さらなる収入の向上」

に向けた最大限の取組みを行うべく全体で議論を進めました。さらにその後、営業職員委員会・内勤職員委員会に分かれ、各組合の課題認識を確認しながら議論を重ねました。

こうした議論の内容を踏まえ、生保労連の基本スタンスを11月5日の中央執行委員会で組織決定した後、11月20日の労使協議会で生保協会に申し入れ、労使間の春闘議論を進めていきたいと考えています。みなさんの生活の安定・向上やモチベーション・働きがいの向上をはかるべく、今後も熱心な議論を行っていきます。

※統一要求基準「賃金改善・営業支援策の充実」について、全組合参加による統一闘争を構築するための基準



▲「統一要求基準」策定に向けて活発に議論

10/1 第2回営業職員・内勤職員委員会における議論のポイント

営業職員委員会

依然として厳しい募集環境で活動する中、営業職員のみなさんが長く安心して働き続けられるよう、「営業支援策・賃金改善」の統一要求基準策定に向けた検討を行っています。また、策定の前提となる営業現場の実態を踏まえ、「採用」「育成」「教育」「活動」などに関する各組合の課題認識を確認した上で、取組みの方向性についても情報交換を行いました。

営業職員のみなさんの「実質的な収入の向上」に向けて、各組合を全力で支援していきます。

◀谷口営業職員委員長



内勤職員委員会

引き続き上昇傾向にある消費者物価が内勤職員のみなさんに与える影響を十分考慮するとともに、「人への投資」と「生産性向上」の好循環実現をはかる観点から、「賃金改善」の統一要求基準策定に向けた検討を行っています。また、社会全体で賃上げの流れが継続している中、人材の確保・定着をはかる観点からも、生保産業で働くことの魅力をより一層高めていく必要があると考えています。

内勤職員のみなさんの「年間総収入の向上」に向けて、各組合を全力で支援していきます。

阪本内勤職員・労働政策委員長▶

